

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|--|--|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | <p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> | <p>家訓としてリビングの目立つ所に掲げて、時々目を通して いる。(思いやり、やさしく、明るく、仲良く温もりのある心のや すらぎが得られる家庭的な雰囲気になります。)仕事に追われ ていても、家訓を読むと心が穏やかになる。</p> | |
| 2 | <p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> | <p>管理者及び職員は、日常的に理念について話し合い、目 標を具体化し、共有したうえで、日々取り組んでいる。</p> | |
| 3 | <p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> | <p>定期的に自治会や家族の代表、利用者代表及び町福祉 課職員、ホームの職員が集い、ホームの理念を説明し、理解 されるよう運営推進協議会を行っている。</p> | |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | <p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> | <p>職員と入居者が散歩の時など、近所の方と声をかけあい 挨拶している。迷惑をかけないように、交通の妨げにならない よう気をつけている。また、近所の方が、度々新鮮な手作りの 野菜を持ってきてくださる。</p> | |
| 5 | <p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> | <p>地区運動会、地区の祭り、他地域でのいろいろな行事に 参加したり、要所要所にホームの新聞を配っている。地域の 総会にもホーム長が参加している。</p> | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | ホームの周りの清掃、草抜きをする。海岸のゴミ拾いをする。野菜をいただいたお礼に、ホームで作ったお寿司をおすそ分けする。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 前回の外部評価で要改善の項目の所を全員で協議し、改善に取り組んだ。自己評価も職員全体で検討することにより、グループホームとしてのサービスのあり方の指針になっている。 | | |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議の後、職員会で報告し、会議の意見を検討し、改善へ取り組み、少しずつ向上に活かすことができている。 | | |
| 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営していくうえで分からないことがあれば、福祉課担当者に相談している。運営や現場の実情は、積極的に運営推進協議会や便り等で伝えている。 | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 成年後見制度は学ぶ機会があったが、入居者の収入は家族が管理しており、入居者の内、3名はホームが小遣い程度を預かっていて、毎月家族にその収支を確認してもらっている。制度は活用なし。 | | |
| 11 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待防止について職員間で話し合い、入居者に対して思いやりの心で接している。これまで虐待は一度もない。これからも防止に努めたい。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|---|---|----------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | <p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | <p>契約時は十分な説明を行い、本人や家族の納得が得られるよう取り組んでいる。「ご入居の流れ」という分かりやすい文書やパンフレットを配布し、面接を大切にしている。</p> | |
| 13 | <p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>利用者が運営推進協議会に参加して意見を示している。外部からの慰問時、外部者との会話の機会を設けている。何気ない利用者の意見がヒントとなり、運営に活かしている。</p> | |
| 14 | <p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | <p>毎月、定期的に、利用者の暮らしぶりを撮った写真や文書を新聞にして、各家族に送付している。面会時は個別の報告をし、家族からの意見を伝えてもらう。時には電話で連絡している。</p> | |
| 15 | <p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | <p>時々、アンケート用紙を配布し、苦情や意見を記入してもらい、それらを運営に反映させている。また、玄関に意見をいつでも記入できるよう意見箱を置いている。</p> | |
| 16 | <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> | <p>月に1回の職員会の場で意見を交換したり、利用者の状況や日々のサービスの実情に合わせて、職員の提案を聞き入れ、対応の見直しを早めに行っている。</p> | |
| 17 | <p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> | <p>利用者の状況や個別の要望に、柔軟な対応で、職員の勤務体制を調整している。</p> | |
| 18 | <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | <p>チームワークを大切にしているためか、離職者は少ない。異動も最小限に抑えている。代わる場合は利用者へのダメージを最小にするため、ケアの継続について職員間で検討している。</p> | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p> | <p>研修の機会があれば交代で研修に参加し、職員会で内容を発表し、職員全体の質の向上につなげている。事業所内の勉強会も定期的に行っている。また、働きながらトレーニングし、身につけている。</p> | |
| 20 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p> | <p>研修の際に、同業者との意見の交換をして交流する機会があり、日頃の仕事の悩みを相談すると同感することが多く、悩みの解消になる。時々、同業者の見学を受け入れ、相互評価等で情報を得る。</p> | |
| 21 | <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p> | <p>利用者に関わることによるストレスが溜まることが多い。運営者にもいろいろ報告して、組織的に取り組んでいる。ケアの合間をみてコーヒータイトムを作り、心身を休めている。</p> | |
| 22 | <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p> | <p>運営者は常に記録等に目を通し、職員の勤務状況を把握している。各自が責任感を持ってケアに取り組み、参考書等を配置して勉強を促し、向上心を持って働けるよう対応している。</p> | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | <p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>入居前に何回か面接をして本人から話をよく聞いたり、職員全員でカンファレンスする。入居前に本人に見学に来てもらう。入居後は、特に気をつけて声かけし、促しや介助を行っている。</p> | |
| 24 | <p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p> | <p>入居前に本人のことを家族からよく話を聞き、注意すべきことや要望を把握する。また、情報シートに記入をお願いしている。入居後は様子を連絡したり、家族や本人と職員でカンファレンスを行っている。</p> | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前に本人と家族の話をよく聞く。家族が入居を希望していても本人が強く拒否している場合、ケアマネージャーとホーム職員と家族等で相談し、他のサービス利用も含めて話し合っている。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前に本人と職員が何回か面接したり、本人もホームの見学に来てもらい、ホームの雰囲気を覚えてもらったうえでサービスを開始する。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 職員は本人と共に料理、掃除、草抜き等を一緒にしたり、散歩やドライブ等の本人の希望を聞き、気分転換を図っている。入居者同士の会話も大切にしている。 | | |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 本人の不安な気持ちを解消するために家族と相談したり、一緒にカンファレンスを行う。毎月1回、本人の様子を撮った新聞を送っている。 | | |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 家族の面会を大切にしている。本人と家族がゆっくり会話できるよう、ソファーや冬はコタツで談笑してもらおう。お茶でもてなしする。 | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 地元の地域の敬老会に参加したり、ふるさと周辺へのドライブをしている。外出の機会を増やし、懐かしい人と出会うことがよくある。 | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 一緒にボール遊び、カルタ等を楽しむ。また、一緒に散歩に行ったり、一緒に料理等の家事を手伝う。自然に、利用者同士ゆっくり会話を楽しんでいる。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 他のサービス利用に変わった利用者や家族が必要とする情報を伝える。また、亡くなった利用者の家族から野菜をいただいたり、慰問して下さったり、職員が家族に外で会えば挨拶を交わす。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの個性を大切にし、できるだけその人の意向を把握している。カンファレンスには本人も参加し、良いサービスができるよう職員全体で検討している。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 馴染みのベッドや家具を居室に持ち込む等、これまでの生活環境に近づける。これまでの暮らし方をよく聞き、また、把握するため、家族にアセスメント表を記入していただく。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 毎日の申し送りを受ける。介護記録や連絡帳をチェックして、その人の変化を把握している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族の面会時に相談したり、電話で相談する。職員間で毎日話し合う。連絡帳に記入し、全職員が把握する。本人の意見も反映する。 | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3か月に1回、ケアカンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。その際、本人や家族も参加し、変化に応じた新たな計画を作成している。急変時は緊急のカンファレンスを行っている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|--|---|------|----------------------------------|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日、介護記録を記入し、気づきを共有している。職員は常に連絡帳を確認し、情報を共有、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 個別に病院を選び受診する等、今は多機能ではないが、それ故に個別の要望に応じている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 消防署員の立会いの中で、避難訓練及び救急指導を受ける。定期的に、地域の民生委員の方の見学を兼ねた慰問を受けたり、保育園児の慰問等、協力していただいている。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 地域の敬老会に参加したり、地域の健康診断を受ける等、支援している。また、地域の運動会やイベントに参加し、ホームも地域の住民であることを再確認している。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 総合的、長期的に事業所の状況に応じて、地域包括支援センターと連携を図っている。 | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者一人ひとりの希望のかかりつけ医を受診支援している。島に点在している6病院(医院)に、各々個別に分かれて通院介助している。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|---|--|------|----------------------------------|
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 専門医に受診支援している。医師と利用者の信頼関係を築きながら、職員も利用者の症状に対して、相談に応じてもらっている。 | | |
| 45 | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 近くの医院の看護師に相談したり、退院後の入居者の様子を病棟の看護師に報告して、ケアについて相談に応じてもらっている。 | | |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院の際は家族と相談し、医療機関に本人の情報を提供する。職員は度々見舞いに行き、洗濯物は事業所で引き受ける。また、スムーズな退院につながるよう、病院関係者、家族、本人と話し合い、退院への支援を行っている。 | | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | カンファレンスの時などに、家族と相談している。事業所としては、できる限りケアを続けたいが限界もあり、かかりつけ医や家族と話し合って方針を共有している。 | | |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 現在、車イスの生活となっても、本人と家族の望みでケアの継続ができています。寝たきりとなっても希望すれば、事業所としてできる限り、支援に取り組んでいる。また、対応が不可能なこと、不安なこと等を職員全体が話し合い、関係者と連携を図り、チームで支援する。 | | |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | グループホームでの生活が困難となった場合、移り住む関係者に対して、本人の情報を詳しく伝え、暮らし方の継続性に配慮してもらえよう働きかけている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|---|------|----------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> | | |
| 51 | <p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p> | | |
| 52 | <p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p> | | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | <p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p> | | |
| 54 | <p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p> | | |
| 55 | <p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p> | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 一人ひとりの排泄のパターンを把握し、介助している。失禁の場合もさりげなく介助している。トイレの自立に向けて、根気よく励ましながら訓練している。 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 毎日が入浴日であり、本人の希望で毎日入浴する人が多い。ほとんどの人が介助が必要である。入浴時間は夕食前までに入りたい人、いつでもよい人ばかりのため、午後入浴が多い。便失禁時は、その時に入浴する場合もある。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 日中は離床し、入居者同士和やかに過ごし、夜、安眠できるようにする。日中、自由に休息も支援している。夜遅くまで起きている人、朝が早い人等、その人のリズムで生活パターンを支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 月1回程度の外食や、地域のイベントに参加したり、ドライブにお連れする等、行っている。将棋が好きな人、音楽が好きな人など、楽しまれている。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 所持金を自由に使っている。管理ができない人は預かり金で、一緒に買い物に行っている。毎月、家族に支出を確認してもらっている。 | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 散歩に出かけたり、買い物やドライブ、外食にお連れする。落ち着かない人は、その時にドライブに個別にお連れしている。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 本人の思いに添って、墓参りや親戚の家へ寄る等、本人の意欲や自立の実現に向けて取り組んでいる。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話をかける希望があれば、支援している。かかってきた場合は、取り次ぎ支援を行い、困難な人は、代理で様子を伝えている。 | | |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 気軽に面会に来ていただけるようお伝えしている。面会時は本人の気持ちになって、職員も喜び、ゆっくりしていただけるよう(居室やリビングで)プライバシーにも気をつけている。 | | |
| (4)安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ウロウロ歩く方がいるが、自由に移動してもらっている。身体拘束はしていない。 | | |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は玄関の鍵はかけていない。プライバシーを守るため、自分で個室の鍵をかけている。玄関はセンサーが鳴り、常に注意している。 | | |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | さりげなく、全員の様子を常に見守っている。職員は、利用者の状況を最も確認しやすい位置にいる。プライバシーに配慮しながら、利用者の動きを察知し、介助している。 | | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 薬品は利用者の手の届かない所に保管している。包丁は夜間、鍵をかけている。異食をする人は少ない。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 歩行可の人が、職員の目の届かない所で転倒することがある。ヒヤリハットで記録し、防止に取り組んでいる。誤嚥時に備え、一緒に食事をしながら、職員二人で様子を見守っている。 | | |

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 70 | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 消防署員の方による救急法の研修を、職員全員で受講した。ホーム内研修で、一通り応急手当の訓練を定期的に行っている。 | | |
| 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 定期的に避難訓練を行っている。地域の人にも協力をお願いしている。 | | |
| 72 | ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている | 注意していても起こりうるリスクについて、前もって家族と話し合っている。状況の変化に合わせて、家族と繰り返し検討している。 | | |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 毎日の健康チェックの他に、常に変化の発見に努め、早期対応している。変化があれば、すぐ申し送りにて職員全員が把握している。 | | |
| 74 | ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者が使用している薬の目的等の説明書を読み、職員はほぼ把握できている。症状の変化を見守り、異常があれば医師に確認し、情報提供している。 | | |
| 75 | ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 便秘で苦しむ人のみ、内服薬にて調整しているが、なるべく自然排便を促している。浣腸は行っていない。 | | |
| 76 | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 利用者全員、毎食後の歯磨きを励行している。夜間、義歯は外し、液に浸して消毒している。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 大まかな食事摂取量を記録し、摂取量が少ない人には、盛り付け方や好みのものを工夫して出している。水分補給の大切さを、職員全員で意識して支援している。個別の腎臓食の食事量法も、全員で支援している。 | | |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | インフルエンザの予防接種は職員、利用者全員で行っている。過去に、一人結核が判明した時は速やかに対応し、感染を阻止できた。定期的に研修を行っている。 | | |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 台所の衛生管理を行い、新鮮な食材を使用している。常に、冷蔵庫をチェックしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 玄関は家庭的な雰囲気があり、玄関周りに花を植え、優しい気持ちで出入りできるよう工夫している。 | | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎日こまめに掃除を行い、まず清潔にすることを心がけている。リビングにはくつろげるソファを置き、季節の花を活けている。利用者が、季節感のある野菜や花の絵を描いて展示している。カーテンで光の調節をしている。 | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自然に自分の場所を見つけて、一人でいたり、2～3人で和やかな会話を楽しんでいる。 | | |

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた物を個室に配置し、本人が安心して過ごせるよう、その人らしい居室となっている。 | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 気になる空気のよどみに対して換気を行ったり、空調はこまめに温度調節し、利用者に配慮した室温にしている。 | | |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 夜間の移動時、物につまづかないよう個室に電気スタンドを灯している。ホーム内はバリアフリーとなっている。要所要所に手すりを設けている。 | | |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | トイレの場所が分かるよう貼り紙をしている。自室も分かるように、名前や写真を掲示している。 | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | ベランダに出て景色を楽しんだり、ベランダに布団を干す等している。面会者の見送りにもベランダを利用している。草拔きが好きな人は、運動がてら、外まわりの草拔きをしている。 | | |

| V. サービスの成果に関する項目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|------------------|--|-----------------------|--------------|
| 項 目 | | | |
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | ○ | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある |
| | | | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と |
| | | | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き生きと働いている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者は、自由に自然体で過ごすことができている。和やかで明るい雰囲気があり、海を眺められる等、景色が良い。職員はチームワークも良く、お互いに助け合って業務に取り組んでいる。職員と入居者の間に、良い信頼関係を築くことができている。